令和2年度

東大和市立第二中学校　　数学科　　授業改善推進プラン

1 東京都教育委員会の実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査結果」

平均正答率%	
本校	昨年度東京都
45.4	52.9

観点別平均正答率 %	本校	昨年度東京都
思考･判断･表現	25.8	29.9
技能	50.3	59.7
知識･理解	55.8	63.6

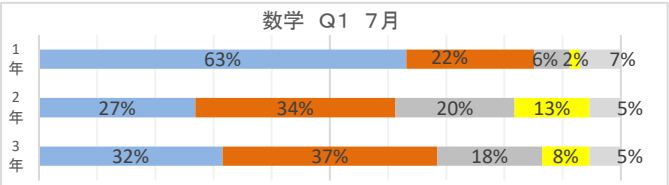
【結果分析】

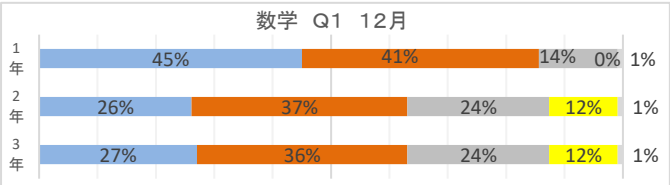
どの分野でも、都の平均より正答率が低く、学習に向かう意欲が不足している。無解答の割合が思考・判断・表現の問題で、20%以上になってしまった。数学に対する関心の弱さが見受けられる。

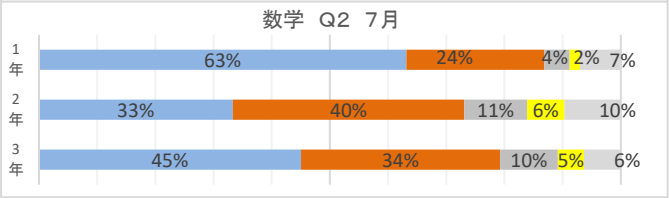
2 本校で実施した「生徒アンケート」結果

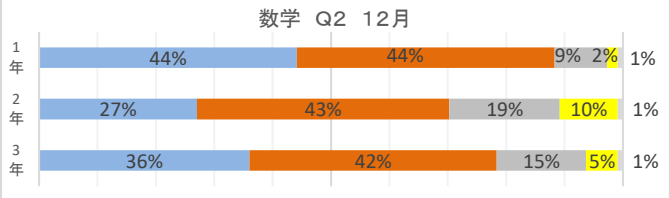
Q1　あなたは、授業を受けることが「楽しい」と思いますか。　　Q2　あなたは、授業の内容を理解していますか。

グラフは左から、あてはまる、ややあてはまる、どちらかと言えばあてはまらない、あまりあてはまらない、無回答　である。









2　　指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導計画、成果と課題

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充･発展指導計画	成果･課題
第1学年	・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、相手に理解している内容を分かりやすく伝える力を育成する指導が不十分である。 ・数学が日常生活や社会生活に必要不可欠であると実感させるような指導が不十分である。	・授業の開始時にペアを組み、前回の授業の要点を伝え合う活動を行う。また授業内での発問を積極的に行い、人前で発言する機会を意図的に設ける。 ・建築学、化学、宇宙工学などの学問の基礎であることや、ローンの金利、データ分析、会計の計算など社会生活を支え、日常生活にも役立つことをICT機器を用いて伝える。	・毎授業の終盤に問題ノートの範囲を指定して、10分前後の自力解決の時間を設ける。この時に机間指導を個別に行う。 ・単元の内容を一通り授業した後、振り返り学習として、問題プリントを配布する。タイム計測をしながら取り組ませ実践力を育む。	【成果】学校評価アンケートにおいて９割以上の生徒が「少人数学習によって学習意欲が向上した」と答えた。 【課題】単元テストがモチベーション向上につながらない生徒がいた。個別指導をとりいれてモチベーションアップを図る。
第2学年	・数学的な技能の習得はできている。ただ、数学的な思考・判断の力が弱いので、他の生徒の考え方を聞いたり、深い思考を行う課題を行ったりする授業を増やしていかなければならない。	・数学的な技能の習得は、今後も続けながら、習得した技能を組み合わせて課題を解決できるように練習する。また、深く考えることができる課題を単元ごとに1回から2回の割合で行っていく。	・前回の内容が定着しているかどうかの補充課題を授業の始め10分で行う。発展的な課題は単元毎に2回程度行い、対話的な学習を行うことが課題である。	【成果】授業ごとに復習プリントを使い基礎的な学力定着を図ることができた。 【課題】学校評価アンケートにおいて「少人数学習によって学習意欲の向上」が少なかった。協働学習やICTなどを使い意欲の向上を図れる授業をすることが改善点となる。
第3学年	・単元テストを行うことにより、数学への意欲と理解度は高まった。思考・判断の力が他の観点に比べると弱いので、思考・判断を伸ばせるような、基礎・基本的な問題を繰り返し行う必要性がある。 ・単元や課題に応じたICT機器の活用が不十分である。	・公式や定理を覚えるだけではなく、活用できることを重点に置き指導をする。 ・プリントや教科書の問題を使い、多くの生徒が考え方を発言・発表できるような機会を増やし、生徒同士の学び合いの時間の確保をする。	・問題集やプリントに取り組む時間を設けることで、より一層の定着を図る。 ・公式や定理などを説明する中で、他教科との関連性やその公式や定理から導ける、発展的な内容の話の時間を設ける。	【成果】学校評価アンケートにおいて、「少人数学習によって学習意欲の向上」が確認できた。 【課題】単元テストについては、生徒のアンケートでは、「学習がしやすい」という肯定的な意見と「テストの回数が多い」という否定的な意見がある。テストの回数が増えると、テストの作成や採点の回数が増えるため教員の負担が重くなる。そのため、ノートやワークの採点を軽減するために、授業内評価を取り入れていくことが改善点となる。

3 主体的･対話的で深い学びの視点に立った指導法の工夫

・生徒の発表する機会を増やす。正解かどうかだけでなく、みんなで考え方を共有し意見を出し合うことで、主体的かつ対話的な深い学びを創り出せるようにICTの活用などを工夫する。